



今年も、「群馬県一大きな笠懸小学校は思いやりも群馬県一」を目指します！

やさしく  
たたくまじく



笠懸小学校

学校だより No.7 2021.6.25

<https://midori-school.ed.jp/kasasho/>

## シリーズ“学力向上”⑥ ～笠小の受けたい授業～

笠小では、今年度の学力向上策の



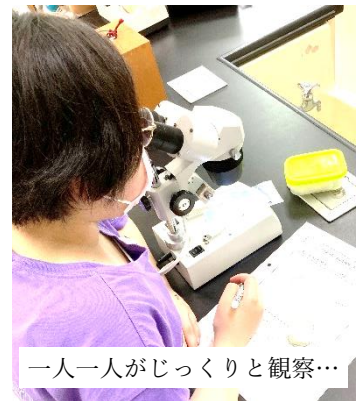
モニターでは心臓の動きや血流も確認できました！

一つとして、「教科担当制の一層の推進」を掲げています。他校にはない取組として、4～6年の算数、5、6年の理科、全学年の英語に専科教員を配置し、それぞれが専門性を生かした授業を行っています。その中から今回は近藤裕教諭の5年理科「めだかのたんじょう」の授業を紹介します。

この授業は、顕微鏡を使ってメダカの卵を観察することが中心の活動です。「せっかく生きている受精卵を観察するのだから、じっくり観察してほしい」と解剖顕微鏡、双眼実態顕微鏡を一人一台準備し、さらに生まれた日の違う受精卵を、生まれ

た日ごとに選別してチャック式のビニル袋に入れ、一人一袋ずつ配っていました。わずか1ミリにも満たない卵を5年生155人分袋詰めしたのですから、気の遠くなるような作業だったと思います。また、この観察の授業には、メダカの卵を必要数採取できるかという問題がありました。6月に入って理科室のメダカが連日産卵してくれたようで、幸い十分な数の卵を確保できたそうです。

子どもたちは、心臓や血液の流れ、体の色素、眼、ひれなどを観察し、それぞれ何日目の受精卵であるかを予想しました。あちこちで「わぁ、動いた！」「あっ、心臓が見える！」などの歓声が上がっていました。また、顕微鏡で観察した受精卵のスケッチも細部まで描写していました。「本物を見せることの強み」が際立った授業でした。



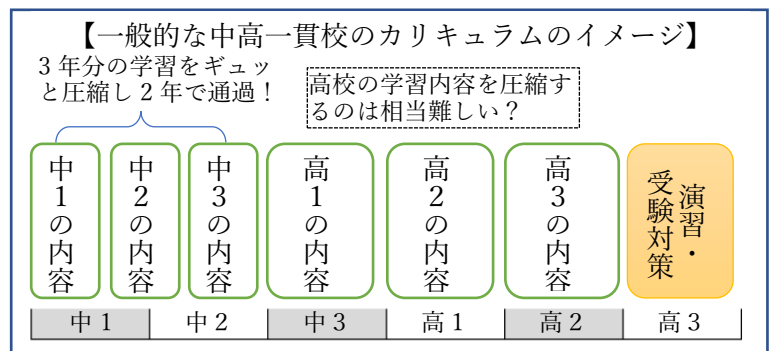
一人一人がじっくりと観察…

## シリーズ“中学受験”⑥ ～一貫校のメリットはカリキュラムにあり！～

中高一貫校のメリットは、何ととっても大学受験に特化したカリキュラム（教育課程）にあります。かつて、ある県内の公立高校で「本校の使命は生徒の志望校合格です」と校長が言い切っていましたが、合格実績が生徒数を左右する私立であれば、なおさらそのための工夫が必要となり、特色のあるカリキュラムを編成しています。

大学受験のポイントとなる教科は、何ととっても数学、英語と言われています。それは、両科目とも「学力積み上げ型」の教科だからです。つまり、基礎が固まってようやく活用問題に対応できるようになるという教科特性によります。

この数学と英語を中学と高校の6年間でどのように学ぶべきかについては、公立も私立もそれぞれの学校で工夫しています。公立の中学校と高校では、学習する時数や内容が学習指導要領で決められていますが、中高一貫校では6年間を見据えた大学受験型のカリキュラムを編成することができます。



一般的なカリキュラムの例（右図）としては、中学校の学習を2年間で学習し、中3から高校3年間の学習をはじめ、高校3年生の時には、大学受験に特化した演習を行います。これは、中学校の学習内容は詰め込むことができても、高校の学習内容は膨大で短期間に詰め込むことは難しいと考えている学校が多いからです。